

維持管理要領書

アールエコ小型合併処理浄化槽

HS-5、7、10 型

ARECO

株式会社 アールエコ

安全のために必ずお守り下さい

以下の警告表示内容を浄化槽を維持管理する前に注意深くお読みになり、よく理解して下さい。
この維持管理要領書で使われている表示マークには、次の意味があります。

！警告・・・取扱を誤った場合に、使用者が死亡又は重傷を負う恐れが想定される内容を示します。
冒頭にまとめて記載していますので必ずお読み下さい。

！警告 1) 消毒剤による発火・爆発、有害ガスによる事故防止

消毒剤は強力な酸化剤です。消毒剤の取扱説明書に従って下さい。
消毒剤には塩素系の無機と有機の2種類があります。これらを一緒に薬剤筒に入れないで下さい。

以上の注意を怠ると発火・爆発および有害ガスを生ずる恐れがあります。

！警告 2) 作業中の酸欠などの事故防止

槽内に入る場合は必ず酸素濃度及び硫化水素濃度を測定し、その安全を確かめて下さい。
槽内で作業するときは常に換気に気を付けて下さい。

！警告 3) マンホール・点検口などからの転落。障害事故防止

作業終了後、マンホール・点検口などの蓋は必ず閉めて下さい。ロック機構のあるものは必ずロックして下さい。

マンホール・点検口などのひび割れ、破損など異常を発見したら、直ちに取り替えて下さい。

！警告 4) 荷重による器物破損・傷害事故防止

通常の埋設工事を行った浄化槽の上には、車などの重量物を載せないで下さい。車などの重量物が載る場合には特殊工事が必要になりますので、専門の業者にご相談下さい。

以上の注意を怠ると器物破損・傷害の生ずる恐れがあります。

！警告 5) 感電・発火および巻き込まれ事故防止

送風機(ブLOWER)・制御盤の近く(50cm以内)には、ものを置かないで下さい。
電源コードの上には、ものを置かないで下さい。

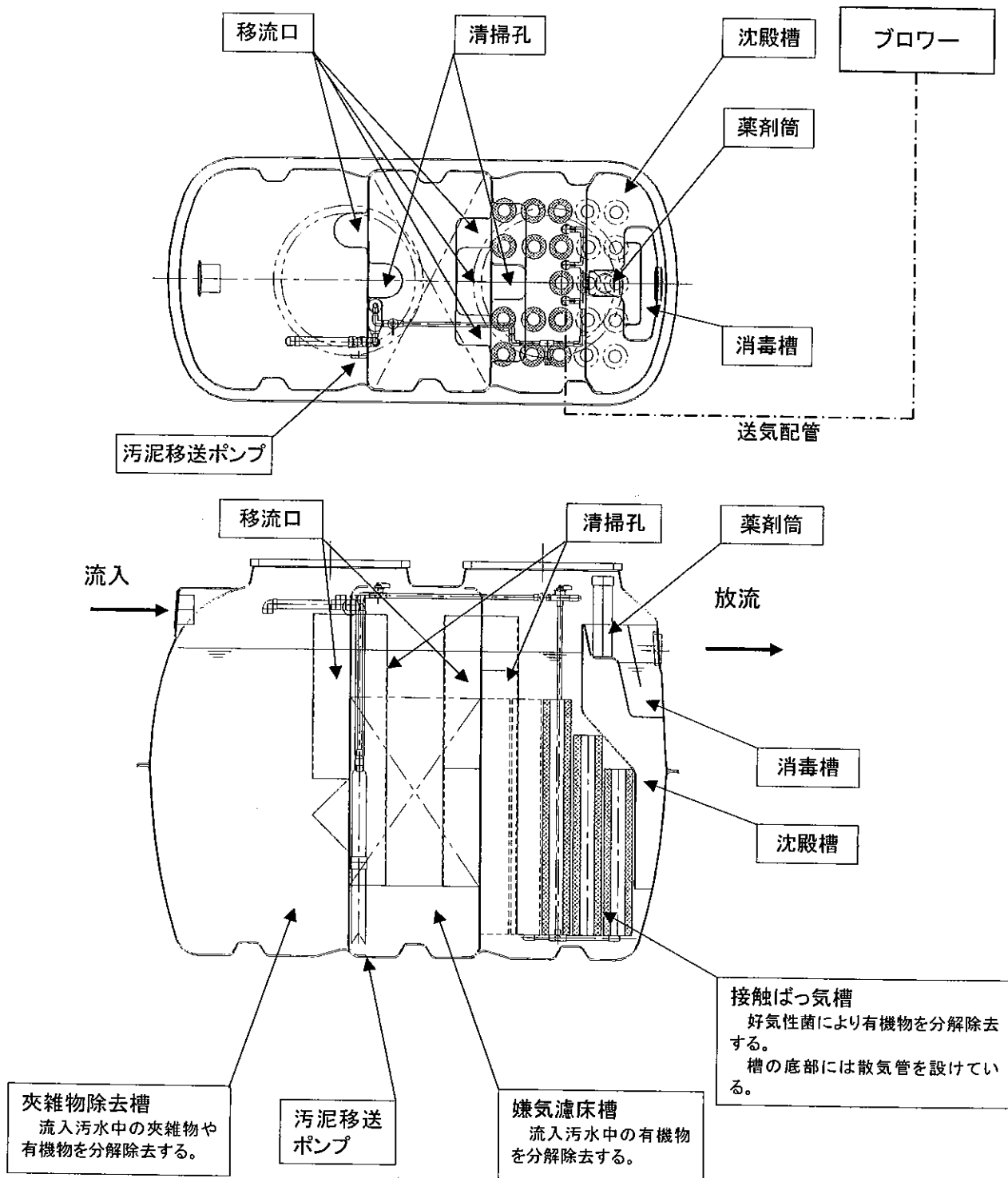
以上の注意を怠ると感電・発火の生ずる恐れがあります。

送風機(ブLOWER)の点検後、カバーは必ず元通り取り付けて下さい。

以上の注意を怠ると巻き込まれ事故の生ずる恐れがあります。

浄化槽の構造と機能

処理方式: 濃縮嫌気濾床接触筒ばっ気方式
 処理水質: 放流 BOD 濃度 20 mg/L 以下



使用上の注意事項

浄化槽を正常に機能させるため、次の注意事項を守って御使用下さい。

項目	注意事項
便所の使用について	・トイレトペーパーは、水に溶けやすい紙を適量使用して下さい。水に溶けにくい紙や布、その他の衛生用品及び薬品類は流さないで下さい。 便器の清掃には塩酸等の薬品は使用しないで、水、ぬるま湯または少量の中性洗剤を使用して下さい。また、殺虫剤、消毒剤、防臭剤等は流さないで下さい。
台所の使用について	・台所の食器洗いでは漂白剤を多量に使用しないで下さい。 ・廃油は流しに捨てないで別に処分して下さい。
風呂場の清掃について	・風呂場の清掃ではカビ落とし剤を多量に使用しないで下さい。
洗濯について	・漂白剤を多量に使用しないで下さい。
送風機の運転	・浄化槽の送風機の電源は絶対に切らないで下さい。
維持管理契約について	・浄化槽法により浄化槽の管理は設置者の責任となっていますが、専門的な知識が必要ですので、必ず専門業者と委託契約を結んで維持管理を行って下さい。

2. 装置の点検時期・回数

使用開始直前に第一回目の点検を行って下さい。

その後は4ヶ月に1回以上の割合で、装置の点検を行って下さい。なお、上記の点検回数に関係なく、消毒剤の残量チェック及び補給を行って下さい。

汚泥の引抜清掃は上記の点検の結果、必要な場合行いますが、最低年1回は汚泥の引抜清掃を行って下さい。

3. シーディング方法(正常な機能を早く実現するために)

使用開始から機能が安定するまでに、ある程度の期間を要しますが、シーディング等の作業を行うことにより、早く機能を発揮することができます。

シーディング方法

投入箇所	嫌気濾床槽	接触ばっ気槽
シーディング剤の種類	・尿尿処理場の消化汚泥、汚泥貯留槽の汚泥。 ・浄化槽の活性汚泥または接触ばっ気槽の汚泥でもよい。 ・市販のシーディング剤。	・合併浄化槽のばっ気槽または接触ばっ気槽の汚泥。 ・市販のシーディング剤。
投入量の目安	・槽内の汚泥濃度が 200～500mg/L になる程度。 ・市販のシーディング剤はメーカーの使用説明書による。	・槽内の汚泥濃度が 100～200mg/L になる程度。 ・市販のシーディング剤はメーカーの使用説明書による。
投入時期	・使用開始後1週間以内。 ・市販のシーディング剤はメーカーの使用説明書による。	

注意すべき点検管理項目

本装置は濃縮嫌気濾床接触ばっ気方式です。

小型合併処理浄化槽の維持管理上の一般的な注意事項のほか、以下の点に注意して点検管理してください。

① 夾雑物除去槽の堆積汚泥量の確認

夾雑物除去槽には、流入汚水中の固形物が沈殿除去されて、底部に堆積汚泥として貯留されます。堆積汚泥の厚さを測定し、厚さが 50cm を超えている場合またはスカム厚さが 30cm を超えている場合は、汚泥の清掃時期と考えられます。

② 嫌気濾床槽の堆積汚泥量の確認と汚泥移送ポンプの稼働状況の確認

嫌気濾床槽には、接触ばっ気槽のばっ気旋回流による自然循環によって、常時接触ばっ気槽の剥離汚泥を含む処理水が移流しています。

嫌気濾床槽底部に堆積する汚泥は、汚泥移送ポンプにより、常時、夾雑物除去槽に移送されます。汚泥移送ポンプは実使用人員の日平均汚水量の 0.5~0.75Q 程度移送出来る様に、空気量を調節して下さい。

③ 接触ばっ気槽のばっ気状況、剥離汚泥移送状況の確認

接触ばっ気槽は本装置の要となる部分であり、ばっ気不良は処理水質悪化の原因となりますので、注意してください。

接触ばっ気槽では、ばっ気旋回流により、常時嫌気濾床槽へと自然循環が行われています。

センターの角型移流口からは、常時嫌気濾床槽の汚水が移流し、その両側の円形移流口からは、接触ばっ気槽の剥離汚泥を含む処理水が常時嫌気濾床槽に移流していますので、各移流口の移流状況を確認して下さい。

使用開始前の点検管理(初期の点検と調整)

項目	点検内容
届出内容の確認	設置されている浄化槽と設置届の内容が合っているか、使用者(管理者)名、設置場所の所在地、浄化槽の型式名(メーカー名)及び処理対象人員等を確認する。 実使用人員数を確認する。
設置場所の確認	点検作業及び清掃作業上支障がないか。 安全上問題はないか。 臭気の問題が発生する恐れはないか。(臭突が設けられているか。)
浄化槽本体の設置状況の確認	浄化槽本体が水平に設置されているか。 嵩上げが行われているか。(嵩上げされている場合は何 cm の嵩上げか。) 寒冷地の場合に必要に応じて保温対策はとられているか。 駐車場等で上部に重量物が載る恐れはないか。(重量物が載る場合はコンクリートスラブ等で荷重が浄化槽本体に直接加わらないよう工事が行われているか。)
流入管渠及び放流管渠	流入管渠と槽本体との接続部に破損、亀裂及び外れ等はないか。 水の流れは正常か。(逆勾配になっていないか。)
夾雑物除去槽	水位に異常はないか。(水準目安線と水位が合っているか。)
嫌気濾床槽	水位に異常はないか。(水準目安線と水位が合っているか。)
接触ばっ気槽 沈殿槽	水位に異常はないか。(水準目安線と水位が合っているか。) 接触材及び接触材押さえに変形、破損はないか。 散気装置を稼働させる。(送風機を運転する。) 散気コックが全開になっているか。(全開にする。) 気泡が接触ばっ気槽の水面全面に上がっているか。
消毒槽	水位に異常はないか。(放流管底と水位が合っているか。) 消毒剤が流出水と確実に接触するように、薬剤筒が薬剤筒受けの中央部に垂直に設置されているか。 消毒剤が薬剤筒に充填されているか。充填されている場合でも消毒剤が袋の中に入ったままになっていないか。
汚泥移送ポンプ	嫌気濾床槽内の汚泥移送ポンプを常時稼働させる。 (単位時間内の吐出水量を測定し、移送水量が実使用人員の日平均汚水量の 0.5~0.75Q 程度となる様に空気量の調節をする。)
送風機	正しく設置されているか。(堅固な架台の上に設置されているか。傾いていないか。接地工事はされているか。) 正常に運転しているか。(異常な騒音や発熱はないか。)

以上について確認し、浄化槽の修理及び改善工事が必要な場合は使用者(管理者)に連絡する。

装置の点検管理(通常の点検と調整)

1. 夾雑物除去槽

項目	点検内容および対策
流出水の採水及び測定	1) 流出水の透視度を測定して下さい。 2) 流出水のpHを測定して下さい。
水温・DOの測定	1) 流入原水(槽内流入口付近)の水温を測定して下さい。 2) 槽内水のDOを測定して下さい。
汚水の流れの点検	1) 水位を調べて、水準目安線の位置にあることを確認して下さい。 流入管・移流管に閉塞はないかを調べ、障害物があれば取り除いて下さい。
スカム及び堆積汚泥量の測定	1) スカムの発生量(平均厚さ)を調べて下さい。 2) 槽底部の汚泥堆積量(平均厚さ)を調べて下さい。 槽底部に汚泥が多量(槽底から50cm以上)に堆積したときは汚泥の引抜清掃を行って下さい。

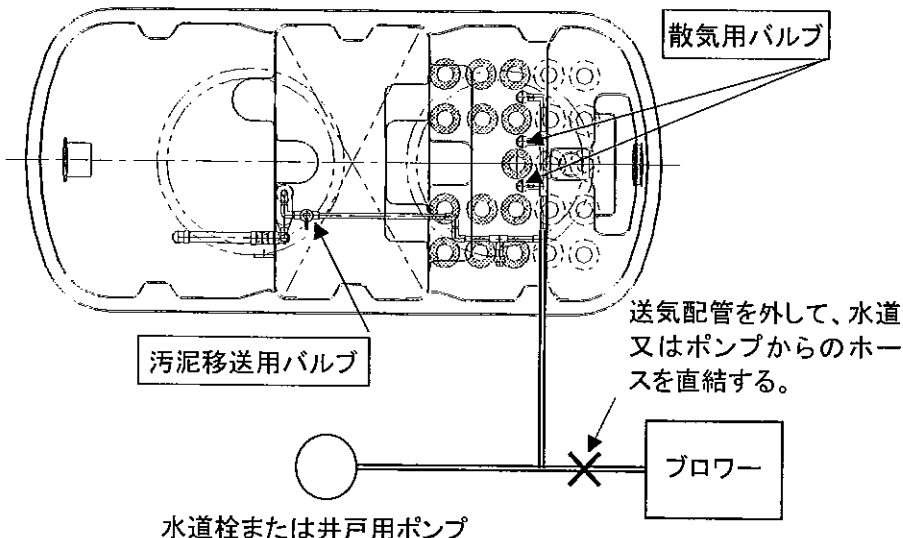
2. 嫌気濾床槽

項目	点検内容および対策
流出水の採水及び測定	1) 流出水の透視度を測定して下さい。 2) 流出水のpHを測定して下さい。
水温・DOの測定	1) 槽内水の水温及びDOを測定して下さい。
汚水の流れの点検	2) 水位を調べて、水準目安線と同じ位置にあることを確認して下さい。 3) 移流口に閉塞はないかを調べ、障害物があれば取り除いて下さい。
スカム及び堆積汚泥量の測定	1) スカムの発生量(平均厚さ)を調べて下さい。 スカムが多量(厚さが15cm以上)に発生している場合は、スカムを夾雑物除去槽へ移送して下さい。 2) 槽底部の汚泥堆積量を調べて下さい。
汚泥移送ポンプの移送水量の調整	1) 汚泥移送ポンプの移送水量の調整は、槽内の汚泥移送用バルブのハンドルを回して、実使用人員に対応する移送水量に合わせて下さい。 2) 移送水量は吐出水量と吐出時間から求めます。吐出水量、吐出時間を測定し、一日当たりの移送水量を計算し、移送水量が0.5~0.75Q程度となる様に空気量の調節をします。

実使用人員(人)	日平均汚水量(m ³ /日)	0.5~0.75Q(m ³ /日)	移送水量(L/分)
3	0.6	0.3~0.45	0.21~0.31
4	0.8	0.4~0.6	0.28~0.42
5	1.0	0.5~0.75	0.35~0.52
6	1.2	0.6~0.9	0.42~0.63
7	1.4	0.7~1.05	0.49~0.73
8	1.6	0.8~1.2	0.56~0.83
9	1.8	0.9~1.35	0.62~0.94
10	2.0	1.0~1.5	0.69~1.04

3. 接触ばっ気槽

項 目	点 検 内 容 お よ び 対 策
流出水の採水及び測定	1) 流出水の透視度を測定してください。 2) 流出水のpHを測定して下さい。
水温及びばっ気状況の点検	1) 槽内水の水温を測定してください。 2) 水位を調べて、水準目安線と同じ位置にあることを確認してください。 3) 接触ばっ気槽は全面ばっ気方式です。気泡が接触ばっ気槽の水面全面に上がっているか点検してください。 4) 槽内水のDOを測定して、2mg/L以上あることを確認してください。 5) 送風機が正常に運転しているか、空気開閉弁が全開になっているかを確認して下さい。 6) 配管等に空気漏れがないかを調べて下さい。
ばっ気不良の原因と対策	
ばっ気不良の原因	ばっ気が著しく弱い気泡が上がってこない場合は、次のような原因が考えられます。 ① 散気用バルブが全開になっていない。 ② ブロワーが停止している。 ③ 送気配管途中にエア漏れがあるか、閉塞している。 ④ 散気管が目詰まりしている。 ⑤ 接触材が閉塞している。
散気管の目詰まり除去方法	散気管が目詰まりしている場合、散気管は接触材の下部に設けられているため、容易に取り外すことはできません。 従って、次の方法によって散気管の目詰まりを取り除いてください。 ① ブロワーの電源を切る。 ② No.1のバルブを閉じて、No.2のバルブのみを全開にする。 ③ 汚泥移送用バルブを全閉にする。 ④ ブロワの送気配管接続部を取り外して、送気配管に水道水またはポンプからの圧力水を注入して、散気管を洗浄して目詰まりを取り除く。 ⑤ No.2のバルブを閉じて、No.1のバルブのみを全開にする。 ⑥ ブロワの送気配管接続部を取り外して、送気配管に水道水またはポンプからの圧力水を注入して、散気管を洗浄して目詰まりを取り除く。 ⑦ 洗浄作業が終了したら、元通りに配管し、ブロワーを運転する。 ⑧ 各バルブを調整して設定を元に戻す。



接触材が閉塞した場合の対処方法	<p>接触材が閉塞した場合、散気管の目詰まりの除去方法を参考にして次の方法によって接触材の閉塞物を取り除いてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ブロワーの電源を切り、30分程度静置し、沈殿槽から上澄水を電動ポンプ等で放流する。残った汚泥は夾雑物除去槽へ電動ポンプ等で移送する。 ② No.1のバルブを閉じて、No.2のバルブのみを全開にする。 ③ 汚泥移送用バルブを全閉にする。 ④ ブロワの送気配管接続部を取り外して、送気配管に水道水またはポンプからの圧力水を注入して、同時に各接触材の上から水道水またはポンプからの圧力水をかけ、各接触材の閉塞物を取り除く。 ⑤ No.2のバルブを閉じて、No.1のバルブのみを全開にする。 ⑥ ④の行程を繰り返し各接触材の閉塞物を取り除く。 ⑦ 洗浄作業が終了したら、槽内に水張りを行い、元通りに配管し、ブロワーを運転する。 ⑧ 各バルブを調整して設定を元に戻す。
汚水の流れの点検	<ol style="list-style-type: none"> 1) 水位を調べて、水準目安線と同じ位置にあることを確認して下さい。 2) 接触ばっ気槽では、ばっ気旋回流により、常時嫌気濾床槽へと自然循環が行われています。センターの角型移流口からは、常時嫌気濾床槽の汚水が移流し、その両側の円形移流口からは、接触ばっ気槽の剥離汚泥を含む処理水が常時嫌気濾床槽に移流していますので、各移流口の移流状況を確認して下さい。障害物があれば取り除いて下さい。

4. 沈殿槽

項 目	点 検 内 容 お よ び 対 策
流出水の採水及び測定	<ol style="list-style-type: none"> 1) 流出水の透視度を測定してください。 2) 流出水のpHを測定して下さい。
槽内の点検清掃	<ol style="list-style-type: none"> 1) 槽内にスカムが発生している場合は、全量を夾雑物除去槽へ移送して下さい。

5. 消毒槽

項 目	点 検 内 容 お よ び 対 策
流出水の採水及び測定	<ol style="list-style-type: none"> 1) 流出水の透視度を測定して下さい。 2) 流出水の残留塩素を測定して、検出されることを確認してください。
消毒剤量の確認	<ol style="list-style-type: none"> 1) 消毒剤の薬剤量をチェックしてください。 2) 必要に応じて、薬剤の補給を行って下さい。
槽内の点検清掃	<ol style="list-style-type: none"> 1) 水位を調べて、放流管底と同じ位置であることを確認してください。 2) 槽内にスカムが発生したり、槽内に汚泥が堆積している場合は、全量を夾雑物除去槽へ移送して下さい。

6. 付属機器

項 目	点 検 内 容 お よ び 対 策
送風機の点検	<ol style="list-style-type: none"> 1) エアクリーナーの点検・清掃 (浄化槽の定期点検時:4ヶ月に1回) 2) 送風機本体の外部清掃(浄化槽の定期点検時:4ヶ月に1回) 3) ネジのゆるみ点検(浄化槽の定期点検時:4ヶ月に1回) 4) 空気漏れの有無、運転音の以上の有無の確認 (浄化槽の定期点検時:4ヶ月に1回) 5) エアクリーナーのエレメント等消耗品の交換(1年～1年半に1回) エアクリーナーの点検・清掃・交換方法その他の部品の交換方法は、別紙「電磁式送風機のサービスマニュアル」を参照下さい。

7. 清掃

本装置は第1槽の夾雑物除去槽に全汚泥が集約される構造になっています。従って清掃作業は第1槽の夾雑物除去槽のみを清掃して下さい。ただし、必要と認められた場合は嫌気濾床槽及び接触ばっ気槽も清掃してください。

尚、例えば5人槽の場合、標準使用時の使用人員が4～5人の時にはおおむね1年に1回程度清掃が必要ですが、使用人員、汚泥の堆積状況を確認の上、適時清掃を行ってください。

項 目	作 業 の 内 容
使用者等の確認	1) 浄化槽の使用者(管理者)及び建築用途等を確認する。 2) 型式名(処理対象人員)及び実使用人員数を確認する。
作業前の確認等	1) 浄化槽の周囲及び浄化槽本体から異常な臭気が発生していないか。 2) 浄化槽及び付属機器類(送風機等)から異常な騒音及び振動が発生していないか。 3) 槽内に入って作業を行う必要はあるか。(槽内作業の必要がある場合は槽内の酸素濃度及び硫化水素濃度を確認する。) 4) 送風機の電源を切って、送風機の運転を停止してください。
夾雑物除去槽の清掃	1) 表面のスカム及び槽内の夾雑物を抜き取ります。 2) 開口部から槽底の汚泥及び槽内の汚水を抜き取って下さい。
嫌気濾床槽の清掃	1)正常に運転されている場合、嫌気濾床槽は清掃の必要はありませんが、汚泥移送ポンプの停止又は故障等により槽内に汚泥が堆積している場合はスカム及び汚泥の清掃を行って下さい。
接触ばっ気槽の清掃	1) 接触ばっ気槽上部の壁、バツフル等に付着した汚泥を洗浄して下さい。 ※正常に運転されている場合、接触ばっ気槽内の剥離汚泥を含む処理水は、常時嫌気濾床槽に移送されているので、槽底の汚泥及び槽内の汚水の抜き取りの必要はありません。
沈殿槽の清掃	1)槽内壁及び仕切り板等に付着した汚泥を洗浄して下さい。
消毒槽の清掃	1)槽内壁及び仕切り板等に付着した汚泥を洗浄して下さい。 2)槽底の汚泥を抜き取って下さい。
水張り等	1) 抜き取り清掃が終わりましたら、各槽の水位が水準目安線の高さになるまで水張りをします。 2) 消毒槽の薬剤筒を定位置に正しくセットして下さい。消毒剤が少ないか、なくなっている場合は、浄化槽の管理者に連絡し、補給してもらうよう処置して下さい。 3) 送風機の電源を入れて通常の運転状態に調整し、接触ばっ気槽が正常に散気されているか、接触ばっ気槽内の水がばっ気旋回流による自然循環によって嫌気濾床槽内に移流しているか、確認して下さい。 4) 各槽の水位が水準目安線の高さまで水張りができたら、注水を止め、全ての開口部(マンホール及び点検口)の蓋を閉め、スラブ回りについた汚水汚泥等を洗い流して、必ずマンホールをロックして作業を終わります。

清掃作業の結果、必要に応じて使用者(管理者)に浄化槽の修理の必要及び使用上の注意について連絡する。

合併処理浄化槽HS-5～10型の保守点検記録票 (使用開始前)

都道府県コード

検印

保守点検の日時: 年 月 日 AM・PM :	天候:	気温: °C
浄化槽の使用者名:	住所:	
浄化槽の管理者名:	建築用途:住宅・その他()	
型式名: HS- 型	処理対象人員: 人	
処理方式: 濃縮嫌気濾床接触筒ばっ気方式	処理性能: BOD20mg/L	

点検項目		点検結果		処置
届出内容	使用者(管理者)名	正・誤		
	住所	正・誤		
	型式名(メーカー名)	正・誤		
	使用人員	適・不適	実使用人員: 人	
設置場所	管理清掃の作業性	良・不良		
	安全性	良・不良	ロック付蓋・防護柵が必要	
	周囲の換気	良・不良	臭気対策が必要	
本槽	水平の保持	良・不良		
	嵩上げ	有・無	嵩上げ: cm	
	保温対策	良・不良		
	耐荷重対策	良・不良		
流入管渠	槽との接続	良・不良	破損・亀裂・外れ	
	水の流れ	良・不良	滞水・漏水・逆流	
放流管渠	槽との接続	良・不良	破損・亀裂・外れ	
	水の流れ	良・不良	滞水・漏水・逆流	
夾雑物除去槽	水位の異常	有・無		
嫌気濾床槽	水位の異常	有・無		
	ろ材・ろ材押さえ	良・不良	変形・破損・外れ	
沈殿槽 接触ばっ気槽	水位の異常	有・無		
	ばっ気状況	良・不良		
	ろ材・ろ材押さえ	良・不良	流出・変形・破損・外れ	
消毒槽	水位の異常	有・無		
	接触状況	良・不良		
	消毒剤残量	有・無	残量: 錠 補給量: 錠	

点検項目		点検結果		処置
汚泥移送装置	移送水量	良・不良	実測値： L/分(調整前) L/分(調整後)	
移流口	水の流れ	良・不良		
送風機	設置状況	良・不良		
	作動状況	良・不良		
その他	修理	要・不要	内容：	
	改善工事	要・不要	内容：	
所見及び管理者への連絡事項				
保守点検の担当者名 (浄化槽管理士番号：)	会社名： (保守点検業登録番号： 住所： TEL. :	印)	緊急時の連絡先 TEL. :	

合併処理浄化槽HS-5~10型の保守点検記録票(通常)

都道府県コード

検印

保守点検の日時: 年 月 日 AM・PM :	天候:	気温: °C
浄化槽の使用者名:	住所:	
浄化槽の管理者名:	建築用途: 住宅・その他()	
型式名: HS- 型	処理対象人員: 人	実使用人員: 人
処理方式: 濃縮嫌気濾床接触筒ばっ気方式	処理性能: BOD20mg/L	

点検項目	点検結果	処置
全般	異常な臭気	有・無
	異常な騒音	有・無
	異常な振動	有・無
	作業の障害物	有・無
	本槽の水平	良・不良
	使用水量	適・不適
m ³ /月(m ³ /日) (計画汚水量: m ³ /日)		

検査項目	測定個所	測定結果		
		外観	透視度	pH
外観 透視度 pH	夾雑物除去槽流出水			
	嫌気濾床槽流出水			
	接触ばっ気槽流出水			
	沈殿槽流出水			
臭気	夾雑物除去槽流出水	無・微・有(下水臭・し尿臭・腐敗臭・かび臭・その他)		
	嫌気濾床槽流出水	無・微・有(下水臭・し尿臭・腐敗臭・かび臭・その他)		
	接触ばっ気槽流出水	無・微・有(下水臭・し尿臭・腐敗臭・かび臭・その他)		
	沈殿槽流出水	無・微・有(下水臭・し尿臭・腐敗臭・かび臭・その他)		
水温 DO	夾雑物除去槽底部	水温: °C	DO: mg/L	
	嫌気濾床槽底部	水温: °C	DO: mg/L	
	接触ばっ気槽上部	水温: °C	DO: mg/L	
窒素化合物		NH ₄ -N	NO ₂ -N	NO ₃ -N
	嫌気濾床槽流出水	mg/L	mg/L	mg/L
	沈殿槽流出水	mg/L	mg/L	mg/L
残留塩素	消毒槽流出水	mg/L		

点検項目	点検結果	処置
流入渠	槽との接続	良・不良 破損・亀裂・外れ
	水の流れ	良・不良 滞水・漏水
	異物の堆積付着	有・無
放流渠	槽との接続	良・不良 破損・亀裂・外れ
	水の流れ	良・不良 滞水・漏水
	異物の堆積付着	有・無
夾雑物除去槽	水位の異常	有・無
	害虫の発生	有・無 蚊・はえ()
	流入汚水	良・不良 多量の油脂・異物()
	スカム	有・無 範囲・厚さ: cm
	堆積汚泥	有・無 厚さ: cm

点検項目		点検結果		処置
嫌気 濾床槽	水位の異常	有・無		
	害虫の発生	有・無	蚊・はえ(
	スカム	有・無	範囲・厚さ: cm	
	堆積汚泥	有・無	厚さ: cm	
接触 ばっ気槽	水位の異常	有・無		
	ばっ気状況	良・不良		
	泡の発生	有・無		
	ろ材の状況	良・不良		
沈殿槽	スカム	有・無	範囲・厚さ: cm	
消毒槽	接触状況	良・不良		
	消毒剤残量	有・無	残量: 錠	補給量: 錠
	スカム	有・無	範囲・厚さ: cm	
	堆積汚泥	有・無	厚さ: cm	
汚泥 装置 移送	移送水量	良・不良	実測値: L/分(調整前) L/分(調整後)	
	異物の堆積・付着	有・無		
移流口	水の流れ	良・不良		
	異物の堆積・付着	有・無		
送風機	設置状況	良・不良		
	作動状況	良・不良		
	エアフィルタ	良・不良		洗浄・交換
	ダイアフラム	良・不良		交換
その他	修理	要・不要	内容:	
	改善工事	要・不要	内容:	
	清掃	要・不要	予定年月: 年 月	
所見及び管理者への連絡事項				
保守点検の担当者名 (浄化槽管理士番号:)	会社名: (保守点検業登録番号: 住所: TEL. :	印)	緊急時の連絡先 TEL. :	

合併処理浄化槽HS型清掃記録票

検
印

清掃の日時: 年 月 日 AM・PM :	天候:	気温: °C
浄化槽の使用者名:	住所:	
浄化槽の管理者名:	建築用途: 住宅・その他()	
型 式 名: HS型	処理対象人員: 人	実使用人員: 人
日平均汚水量: m ³ /日	流入水質: BOD mg/L	
処理方式: 濃縮嫌気濾床接触筒ばっ気方式	処理性能: BOD20mg/L	

異常な臭気: 有・無	異常な騒音: 有・無	異常な振動: 有・無
槽内に入って清掃作業を行う必要性	無・有(酸素濃度: (%・ppm)硫化水素濃度: ppm)	

清 掃 作 業 内 容

単 位 装 置 名	引 き 抜 き 作 業 内 容			洗 浄 の 実 施 の 有 無	張 り 水 の 量
	無 ・ 有	対 象 物	引 き 抜 き 量		
夾雑物除去槽	無 ・ 有	全量	m ³	有 ・ 無	m ³
嫌気濾床槽				有 ・ 無	
接触ばっ気槽				有 ・ 無	
沈殿槽				有 ・ 無	
消毒槽				有 ・ 無	
総 量	作業車(トン車 台) m ³				m ³

管 理 者 へ の 連 絡 事 項	内部設備の破損・変形	無・有(その状況:
	修理の必要性	無・有(その状況:
	使用上の注意	無・有(その状況:
	その他	

清掃作業の担当者名	会社名: 印	緊急時の連絡先
	住所:	
	TEL .:	TEL: